

錦昇
文庫

幽貞
画

種彦
作



鏡

~ 13
3730
42

部
の

遊
女

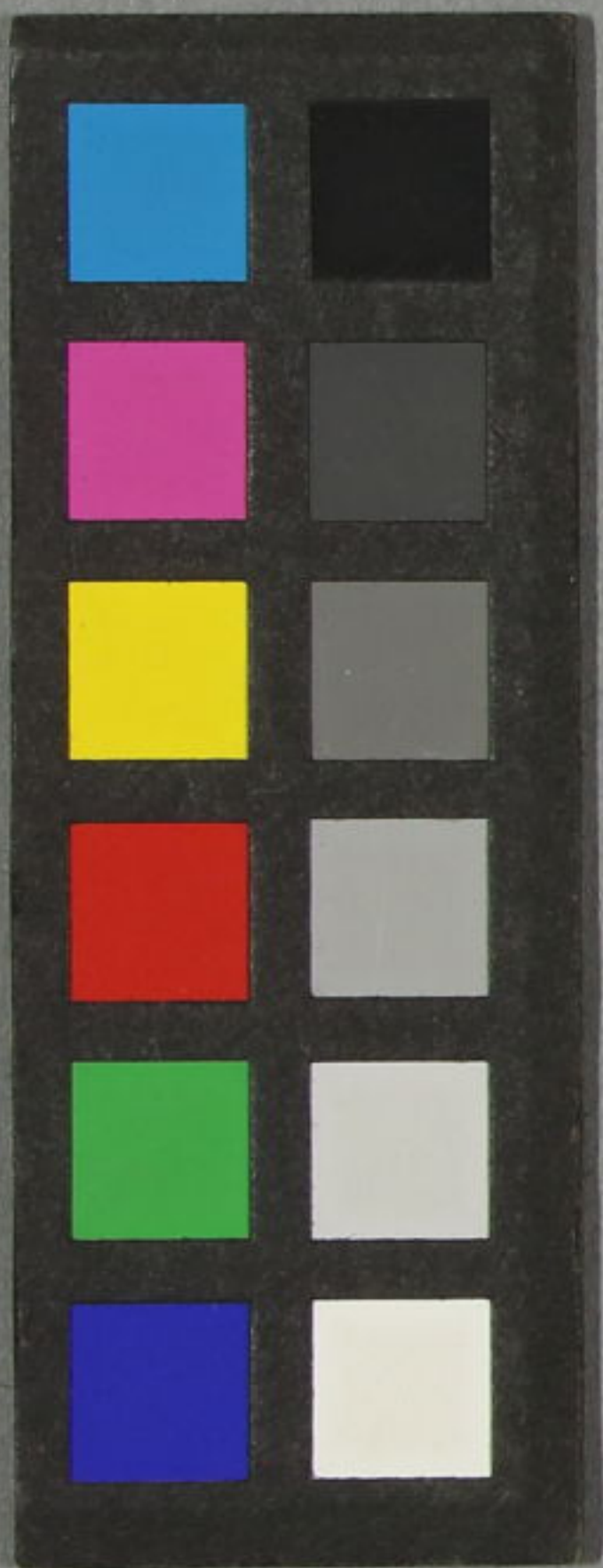
二十一編上

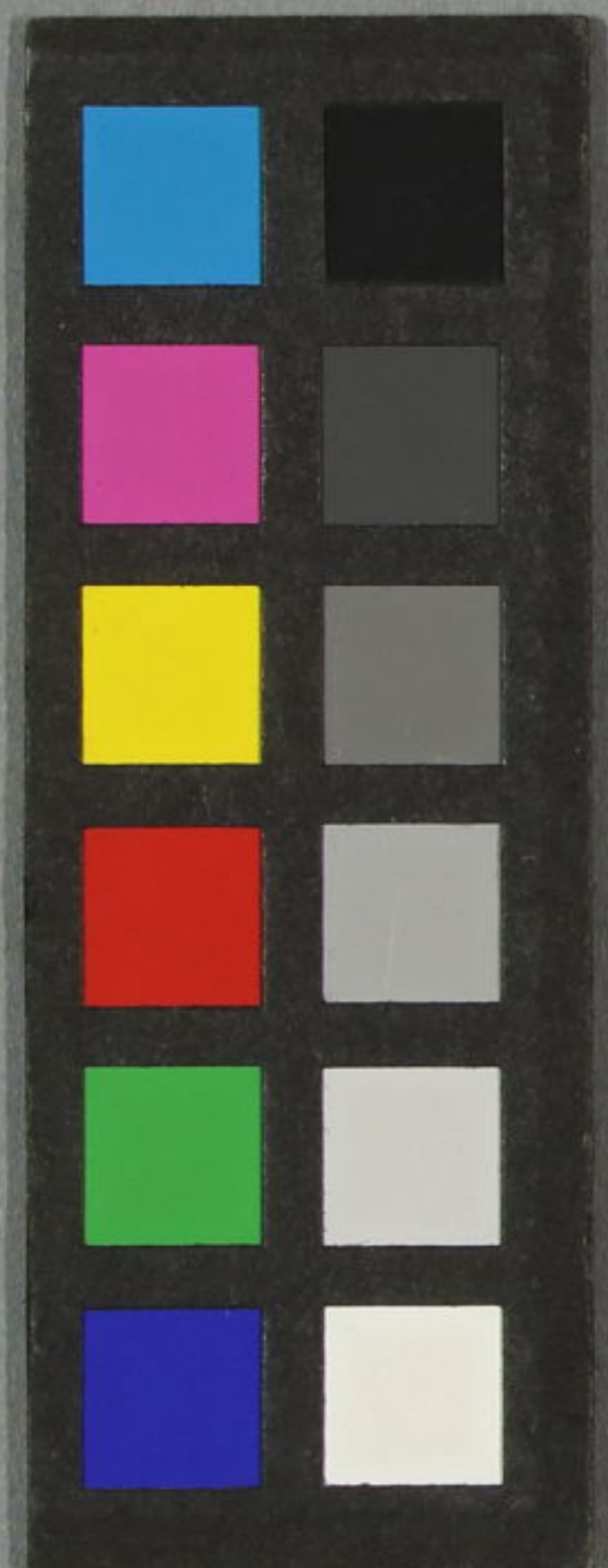
伴題曲豆團扇



~ 13
3730
41

20
1
2
3
4
5
6
7
8
9
30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
40
1





門へ13
3730
41

其内可理

糸昇半棹

飛奈法

松

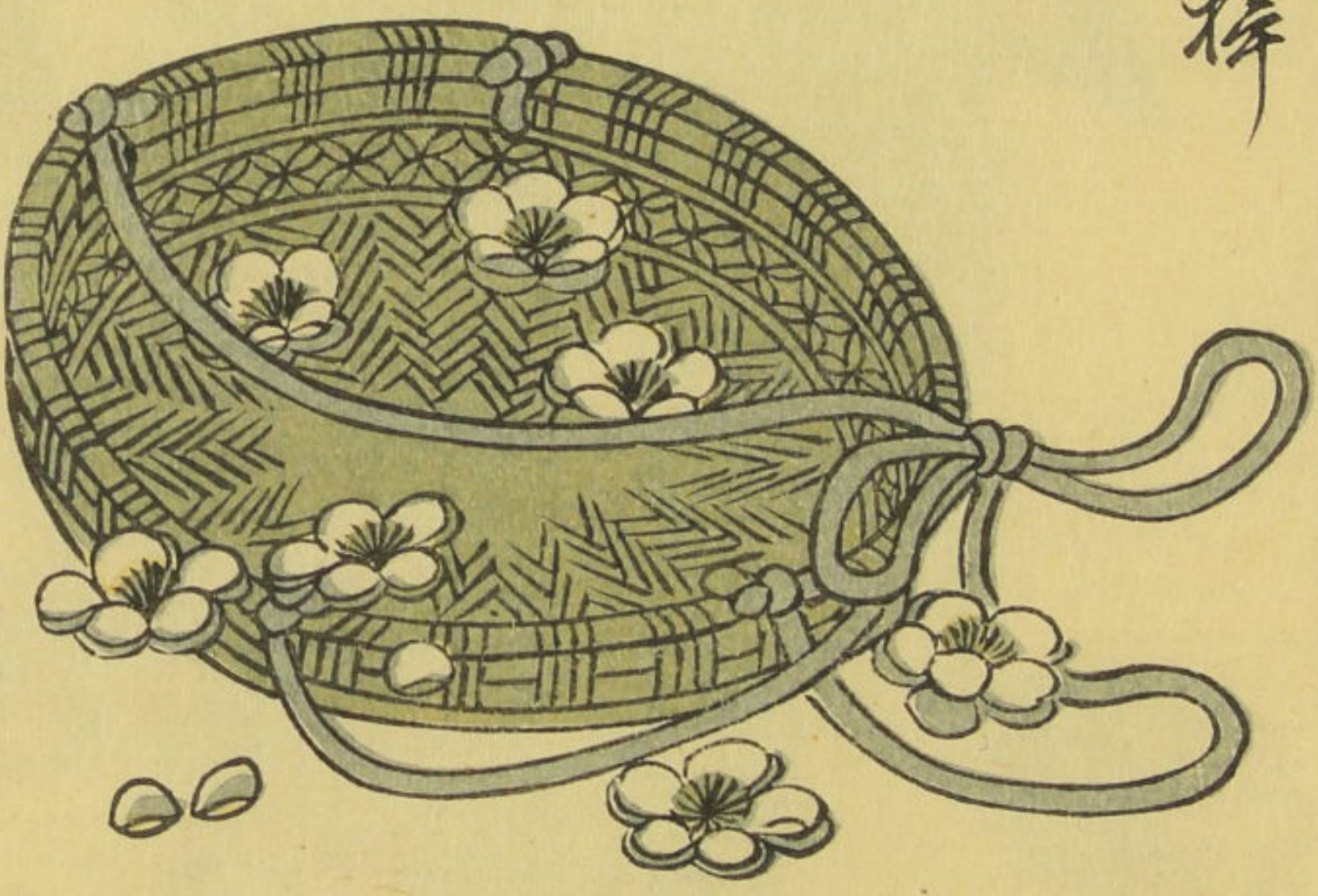
赤

他者

柳多種表

画工

梅塔楼國貞



二千一編の上

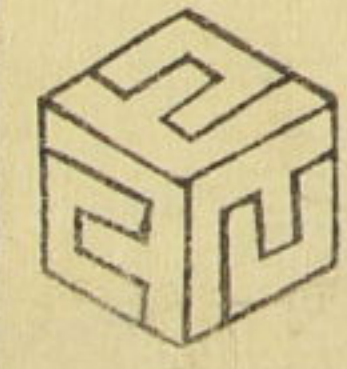
一

源氏の巻名に牽牛子葫蘆のりて盡顔あき如何俗にて歌ふ詠せぬ
 故と答し由誰のりてさうばあれ程古昔より哥り詠松夷を出さば鈴
 夷を採たむ何如や詰りて自己賢慧しや誇人も有とるむ論説乃是
 非を問と據られ種不取の戯作者の出精も多先師の後涼殿の更衣
 に比る女の名を畫顔と号らまされ在る松夷といふ惡婦をまうけ
 鈴夷の巻は漆負小あつれど此松のり住を枯ま毒魚りて
 鳴もとぬを軒漚を催さ猶欠伸を引黛の磯菜の昔の花街をさ
 吾古木の追福の本文の更あれど實の案のつきの宴是へ上冊乃坊
 主臭さ白湯のやうな物語の氣を轉る追りて盡顔あきの華も拵
 由縁の画らしくあはれ難なる人の有このを志すは紫のあぢふ
 做ふ物うら夕霧の巻よわらたれど藤屋のりり尊よもつあましくあむ

甲子新春



柳亭種彦



下等十一

此より宵る画様十二編の下に既
出しこれと脚おりの由有て又序つ



月夜
あり
あまねるを
たじろきよ
そのおん
備を

八月十五夜
雲井丞氏仲
四郎尚久と

先將軍

義植公の
御所

小川の

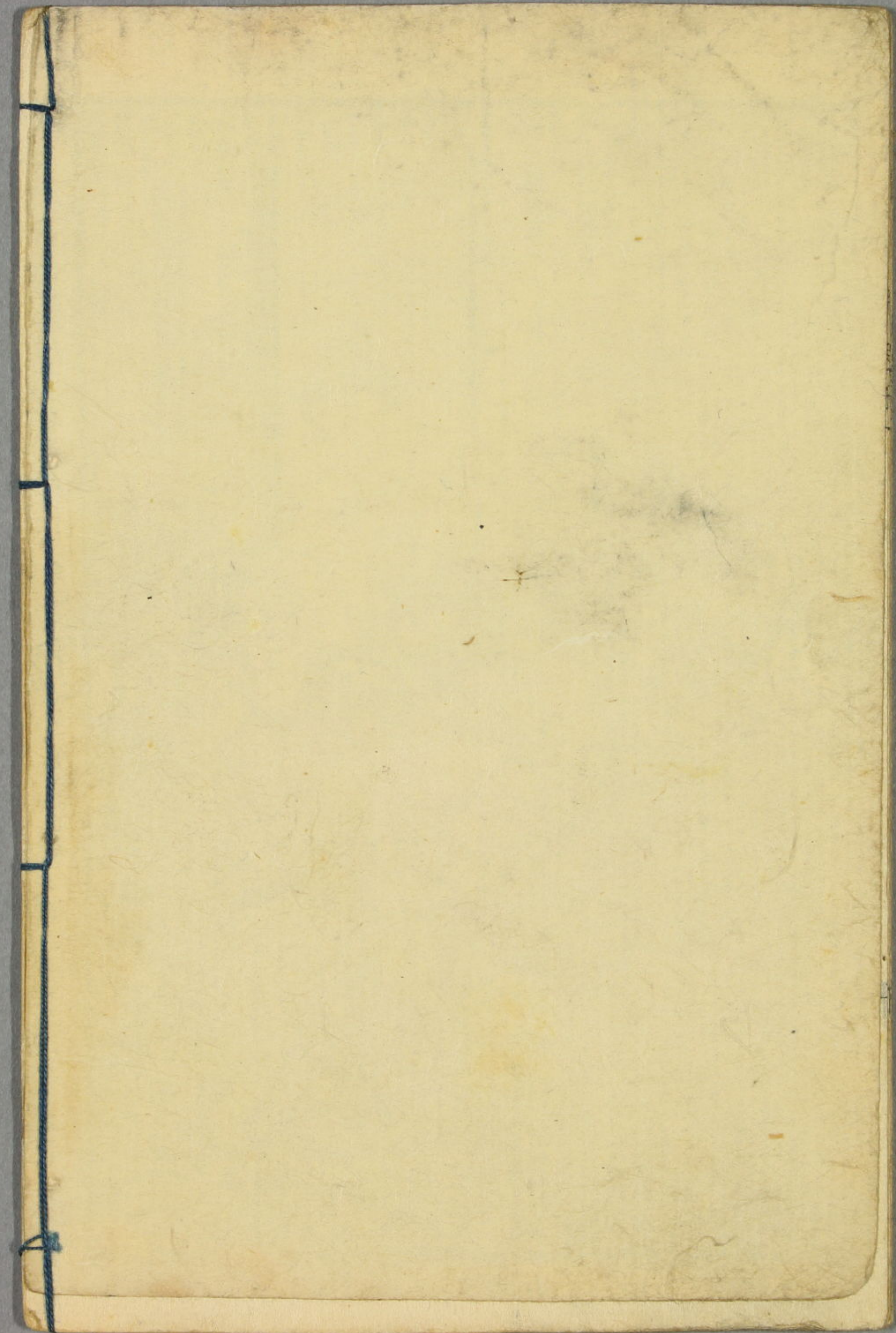
御館へ

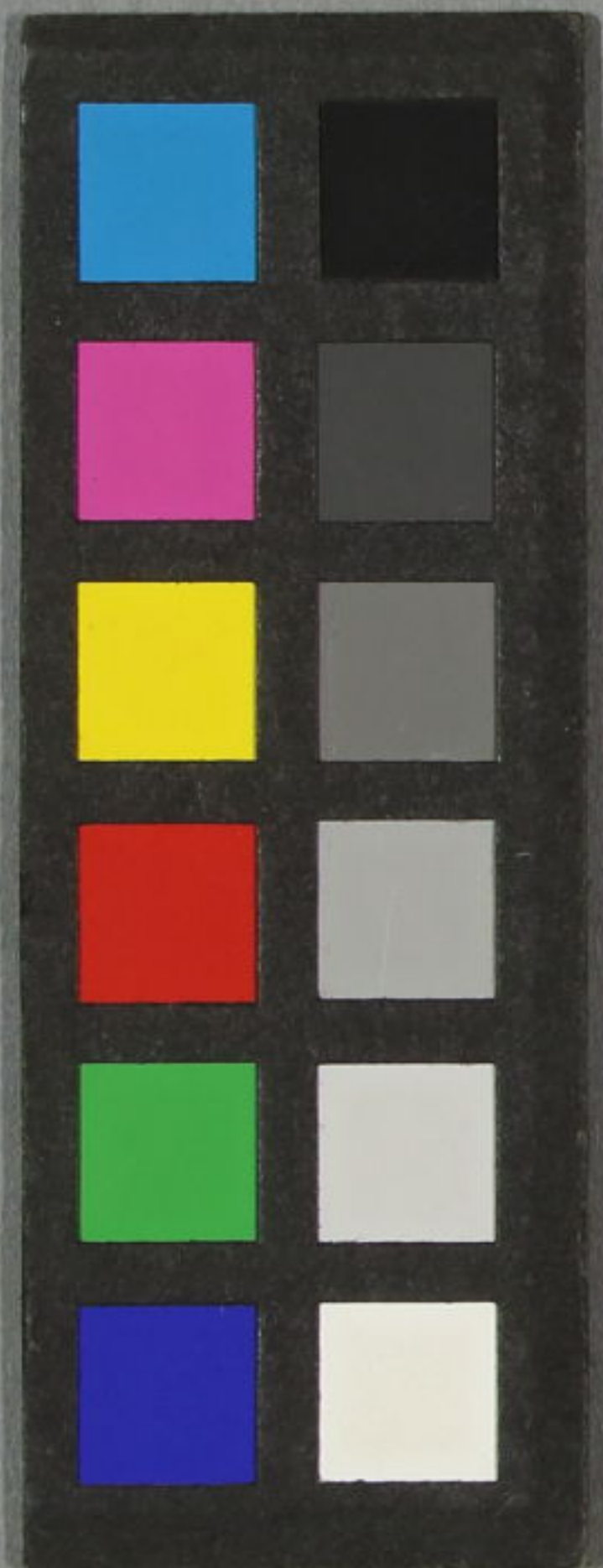
たまふ
せころ



さやとあ
ふのそとあひ
あつて
あひさる
あんま
ありの
さぬ
さぬ

赤松
子息
二人同道
文木





種彦 作
 幽貞 画
 錦昇 文庫

俵

~ 13
 3730
 42

二十編下

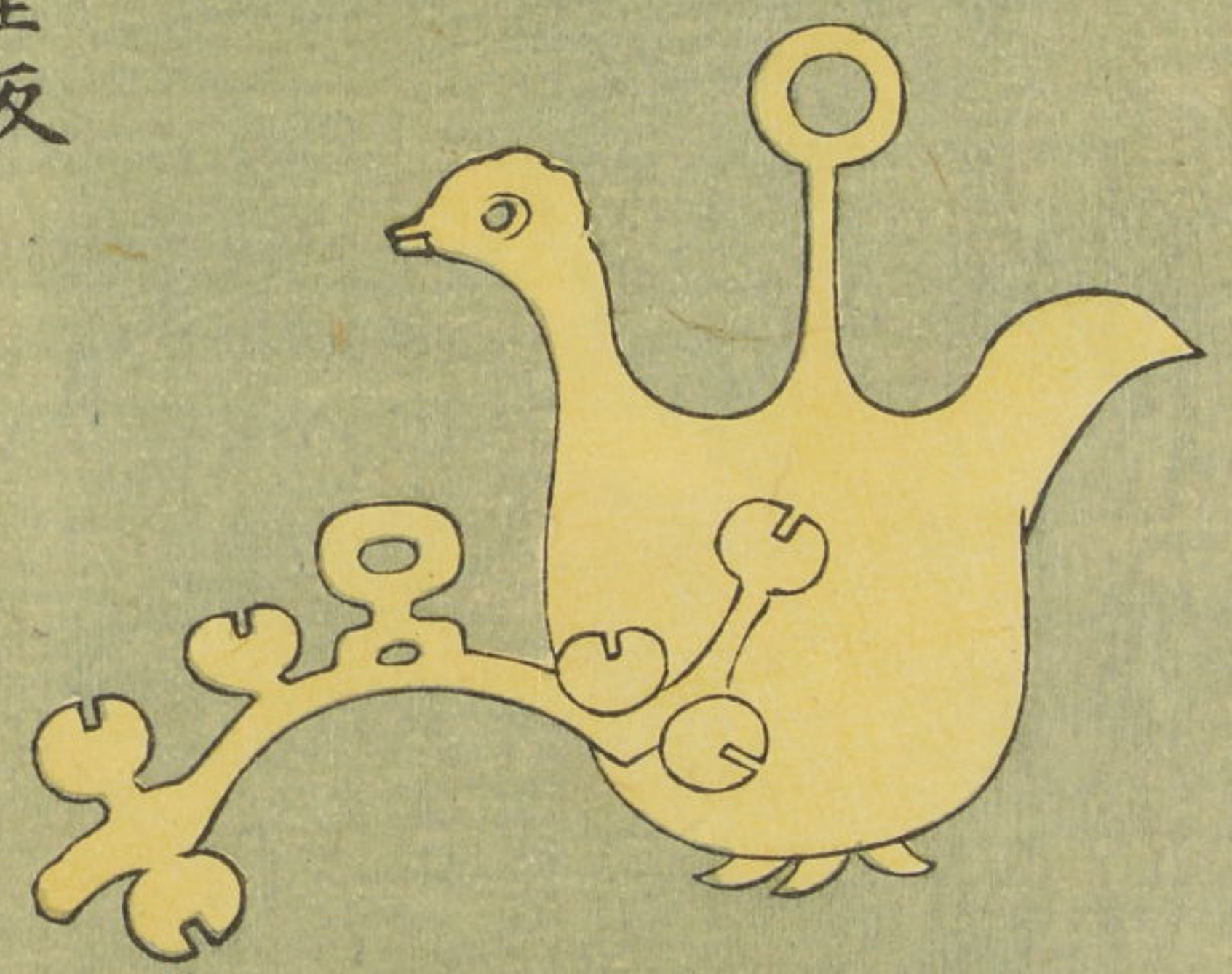


門 へ 13
 3730
 42

鄙面影 廿二編下



種彦著
 國貞画
 笑壽屋板



邦身士一

十一

